



実験では、クラゲ駆除機の前にクラゲを投げ入れると、切断されたクラゲの破片と海水がホースの後ろから勢いよくはき出された。深浦町

吸い込み切断 クラゲ駆除

定置網漁業に大きな被害を与える大型クラゲの駆除機が開発され、漁業関係者らによる実証実験が2日、深浦町の深浦港であった。小型漁船に載せて運び使うことができ、海中に漂うクラゲを吸い込んで細かくカットし、定置網外に強制的に排出する。漁業関係者らからは「実用可能だ」と評価する声が上がった。

深浦で実証実験



吸い込み口の中心部にカッターが付いた大型クラゲ駆除機。深浦町

小型漁船用に開発

漁業関係者ら「実用可能」の声

そのまま海水とともに流し出した。

実証実験に加わった県漁連や県定置漁業協会、地元の深浦漁協の関係者らは、切断されたクラゲを回収しながら「10センチくらいまで切断されるなら（そのまま海洋へ排出しても）網への影響は出ないだろう。処理のスピードも速い」と満足げ。地元の漁業の男性は「定置網にかかるクラゲは毎日2千〜3千匹。海がしけた場合は1万匹も網にかかっていることがある。これだとクラゲを処理するのは速い」と感心していた。

実証実験をした県定置漁業協会の西崎義三会長は「手作業での除去は3、4時間もかかる。定置網の海水面に浮くクラゲを手早く処理できれば、網の下部にいる魚をあまり傷めず、鮮度を保って水揚げできる」と評価した。

道南鉄工は、今回開発した駆除機のカッター構造を特許申請する予定。西崎会長によ

ると、価格は1台約250万円程度になるといふ。今後、国の公的助成制度が適用されるよう働きかけ、県内の定置漁業協会の会員に、購入、設置を薦める考えだ。